

図書館だより

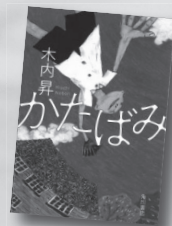
開館時間(共通) 9時～17時30分
 中央図書館 ☎ 0558-76-5566
 葦山図書館 ☎ 055-949-8605
 HP <https://izunokuni-library.jp>



今月のおすすめ

一般

【中央】



かたばみ
木内昇／著
KADOKAWA

女性の生き方もままならない戦後。小金井で教師をしていた弟子は、よんどころない事情で家族を持つことに。血のつながらない親子を描く笑いと涙のホームドラマ。

一般

【葦山】



しあわせガレット
中島久枝／著
角川春樹事務所

派遣契約が終わった日の帰り道。詩葉は、路地奥で見つけた店のこだわりの詰まったガレットに魅了され、雇ってもらうことに。疲れた心をおいしく癒す連作短編集。

一般

【葦山】

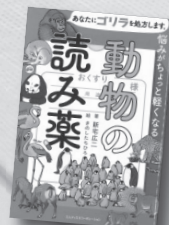


八月の御所グラウンド
万城目学／著
文藝春秋

大学生・朽木は、借金のカタに、早朝の御所グラウンドで謎の草野球大会・たまひで杯に参加する羽目に。表題作と『十二月の都大路上下』の2編。愛しくほろ苦い人生。

一般

【中央】



悩みがちよっと軽くなる動物の読み薬
エムディエヌコーポレーション

方向音痴には迷子王アザラシ、ダイエットの失敗にはクマを。人間の悩みに、くすくと笑って少しだけほっとする動物たちの生態や行動を集めた動物処方箋をどうぞ。

新着本コーナーから

- 一般 可燃物
- 一般 百年の子
- 一般 リスペクト
- 一般 鷹の惑い
- 一般 自然知能
- 一般 無礼語辞典
- 児童 しょうぼうのずかん

- 米澤穂信／著 【中央・葦山】
- 古内一絵／著 【中央】
- ブレイディみかこ／著 【中央】
- 堂場暁一／作 【葦山】
- 外山滋比古／著 【葦山】
- 関根健一／著 【中央】
- 山田タクヒロ／著 【葦山】

10月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	②	3	4	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	⑬	17	18	19	20	21
22	⑳	24	25	26	27	28
29	⑳	31				

○ 中央休館日 □ 葦山休館日
◇ 両館休館日 ☆ おはなし会

10月のおはなし会

- ・中央図書館 14日(土) 11時～
 - ・葦山図書館 28日(土) 11時～
 - ・くぬぎ会館こども広場 19日(木) 10時10分～
- ※事前申込は不要です。

お知らせ

雑誌の無料配布

保存期間の過ぎた雑誌を無料配布します。

- とき／
- 中央図書館：10月28日(土)～11月5日(日)
 - 葦山図書館：10月29日(日)～11月5日(日)
- ※各館の開館日のみ

- 図書館によって雑誌の種類が異なります。
- 袋などの入れ物をお持ちください。

文化財通信

その220

変わりゆくもの・変わらないもの - 甑・甕・鍋のこと -

文化財課 ☎ 055-948-1428



▲写真1 仲道A遺跡出土縄文土器

私たちの先祖たちは、生きるために、動物や植物などを狩猟・採集、そして調理・加工をしてきました。調理の基本は「加熱」です。これにより硬いものを柔らかく、おいしくします。

国内の遺跡で確認された調理の痕跡の中で最も古いものは、「蒸し焼き」でしょう。焼けた石を集め、その熱を利用していたと考えられます。一方、「煮る」という調理法が始まったのは、うつわ(土器)が出

現した縄文時代でしょう。現在、私たちの周りにある鍋や釜のルーツは、縄文時代にさかのぼります。

市内三福の仲道A遺跡では、縄文時代草創期の土器(写真1)が出土し、県の文化財に指定されています。この遺跡で出土した土器の大半は「煮る」ためのうつわでした。

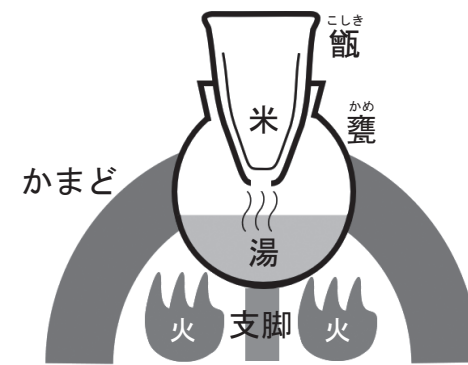
稲作が本格化した弥生時代や次の古墳時代の初めの頃は、住居の真ん中に「炉」を設け、そこにうつわを据えました。このうつわは現在「甕」と呼ばれ、お米を雑炊のように調理していたと考えられます。

5世紀後半(古墳時代中期)に、画期的な設備が登場します。それはかまどです。この頃は甕をかまどに据え、その上に乗せた「甑」の中の布などにくるんだお米を「蒸す」という調理法(図1)が普及します。現在のもち米の調理法と同じであったと考えられます。

奈良・平安時代以降、鍋や釜などが出現します。浅く作られたものを鍋、周囲に鑊を付けたものを、鍋より深いものを釜と呼ぶことが多いよう

です。これらは主に粘土で作られました。したが、鉄や石の鍋もありました。平安時代の終わり頃から、先祖たちの住居は、床板を貼った建物へ変化します。囲炉裏で、鍋などを五徳の上のせて調理している風景を、絵巻物に見ることができます。

現代の私たちが使う調理のうつわは、IHクッキングヒーター対応などさまざまな材質・形があります。うつわの変化は、先祖たちの生活の発展を物語っているのです。



▲図1 甑・甕・かまどの模式図